

# ご支援、ありがとうございます

No.7で「ご支援のお願い」をさせて頂きましたが、  
多くの皆さんからご協力を頂きました。  
心から御礼申し上げます。お蔭様で  
このレポートで議会の様子をお伝えできる一方で  
皆さんからも様々なご意見をお寄せ頂いております。  
これからも応援に値する政治家を目指して  
全力を尽くしてまいりますので  
引き続き、厳しく温かくご声援くださいますよう  
よろしくお願い申し上げます。

カンパの口座は  
こちらになります



ご意見ご声援をよろしくお願い致します！

TEL 042-335-0097 / FAX 042-361-9856

Email [sugimura@sea.sannet.ne.jp](mailto:sugimura@sea.sannet.ne.jp)

URL <http://www.fuchu21.gn.to/>

郵便振替 00150-1-102251

銀行口座 みずほ銀行府中支店 貯 4572242

府中市議会議員・民主党

## 杉村康之 / プロフィール

昭和44(1969)年2月19日生(35才)  
府中市日鋼町に育ち、現在栄町在住。  
府中一小、府中四中、国立高校、青学大卒。  
その後 日本新党の活動に参加、  
衆議院議員 山田ひろし(現杉並区長)  
の公設秘書を経て、  
平成11年府中市議選に無所属で初挑戦。  
平成15年府中市議選に自由党で初当選。  
現在、民主自由の合併に伴い民主党に所属。



つよい日本をつくる。

府中の元気

# フリーダムネット

No.10 2004.10

## 基礎学力と魂の教育

～ 9月議会の一般質問～

都の学力調査について  
体験学習 = セカンドスクール  
歴史教育について

### < 経済の建て直しも教育改革から >

6月議会の一般質問に引き続き、教育をテーマに質問しました。しばらくは教育を重点に活動したいと思っています。

子供たちをめぐる悲惨な事件や学校・学級の崩壊をみるにつけ、大人たちのいい加減さをみるにつけ、教育を変えるしかないな、としみじみ思います。

長引く不況の根底にも、教育の荒廃があると思います。日本が元気を取り戻すには、日本人の意識を変えなければなりません。イギリスが英国病を克服した、一つの柱はサッチャー政権下の教育改革でした。

親を中心に、市民が盛り立てて、地域の子供たちと一緒に育てていきましょう。皆様からの貴重なご意見をぜひお聞かせ下さい。

## 基礎学力と魂の教育を

杉村 「生きる力」を育むためには、「知・徳・体」のバランスが大切。今回は「知」と「徳」に関連して質問いたします。

まず、知の基礎となる学力がどの程度であるか把握することは大切だが、都が行った学力調査（中2）の結果をどう生かすか。

教育長 学力調査、意識調査の結果分析を行い、生徒の学習活動と日常生活のつながりを明らかにしながら、授業改善に努める必要がある。各学校では結果を踏まえ、授業改善推進プランを作成し、今後の指導に生かしていく。

杉村 知識や学力とともにそれを使う人間の心や魂の教育も必要。生まれながらの豊かで便利でバーチャルな社会にありながらも、リアリティーのある次世代を養っていくために、「体験活動」は非常に重要だと思う。体験活動の意義、「教育プラン21」にある「セカンド・スクール」の今後の予定について聞きたい。

学校教育部長 プラン21では、知識偏重がちであった教育を転換し、体験活動を通じて、生きた知識を身につけ、自ら学び、考え、主体的に行動する資質や能力をバランスよく育むことをねらいとしている。セカンドスクールについては、まず現行の移動教室を1泊から2泊へと拡大し、その成果を踏まえた上で研究したい。

杉村 実体験とともに魂の教育に欠かせないのが歴史教育で、先人たちの生きざまを学ぶことを通して、自分の生きざまをその中から掴み取っていくものだ。歴史教育の意義をどう考えるか？

市長 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や、優れた文化遺産について、興味と関心と理解を深めるとともに、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を育てるために大切な学習である。

杉村 歴史教科書の採択にあたっては、「我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる」(学習指導要領)ことができる教科書であるかどうかということが、判断基準の一つとして大切だと思うが、市の見解は？

学校教育部長 このことに限らず、採択にかかわる立場の人は、学習指導要領のねらいや内容を十分に理解し、採択事務に携わる必要があると認識している。

## 「つながり」を大切にすることを

最近の子供たちをめぐる悲しい事件には心が痛みます。決算委員会でも取り上げましたが、佐世保の女児の事件は衝撃的でした。なぜこんな事件が起こるのか、このことを私たちは今、本気で考え、真剣に取り組んでいかなければ、将来、日本は取り返しのつかないことになります。

悲しい事件は、1つの側面として人と人とのつながりのない世界で起こっているように思います。ゲームセンターや繁華街、インターネットやテレビゲームのようなバーチャルな世界など。家庭でも学校でも地域でもない、このような空間を最近「第4の空間」というそうです。

確かに、そこには匿名性があり、わずらわしさがなく、そこへ逃げ込みたくなることは大人にもありますが、一方で私たちは人とのつながりの温かさ楽しさも知っているから、普通の世界に戻ってこられます。

人間の社会は、横と縦のつながりが無数に交差し、その交点に今私たちが生きています。質問の最後で私は「人と人とのつながりを、素直に受け止めて、肯定的に受け入れられる方が、人間として幸福に生きられると思う。そういった教育をぜひしてほしい。」と訴えました。

## 骨太な教育を！

そのための手段として、横のつながりを教えるのが例えばセカンドスクールであり、縦のつながりを教えるのが歴史教育であると考えます。特に歴史教育は重要で、「生きる力」の背骨になるものだと思います。

セカンドスクールについては、学校教育プラン21に「開設に努める」とありますが、今はそこまではとても手が回らないという印象でした。予算の問題や授業時数との関係、親や教員の賛同が得られるかなどの課題がありそうですが、勇気を持って決断するに値する事業です。

歴史教育については、ともすれば過去を否定する歴史観で教育される傾向があります。事実は事実として教える必要がありますが、歴史全体としてバランス感覚のある、子供たちが将来に向かって意欲をもてるような歴史教育がなされることを望みます。

セカンドスクール：長期間（2週間ほど）親もとを離れ、都会の日常の空間とは異なる場所に宿泊する体験学習。そこで子供たちは、自然や農村の生活、そこの人々との交流、また仲間との共同生活を体験する。武蔵野市が十数年、独自予算で実践してきたが、今年度（平成16年度）の文部科学省の予算に、「長期宿泊体験」事業として位置づけられた。